

令和2年度豊橋わかば議会 所信表明（要旨）

天野 愛悠委員

私は高校生の時には、JK広報室という活動に参加していましたが、部活や受験勉強があったこともあり、あまり参加できず、不完全燃焼で終わってしまいました。そんな時に、このわかば議会募集の広告を見て、応募させていただきました。この場を借りて、私がこの1年間達成したい目標を掲げさせていただきます。

1つ目は私自身のコミュニケーション能力の向上です。私は昔から人見知りが酷く、人前で意見を言う事があまり得意ではありません。しかし、そんな私だからこそ、このわかば議会を通して、コミュニケーション能力を高めていきたいです。

2つ目は、地域の活性化です。私は豊橋が大好きで、この先就職しても結婚しても、ずっと豊橋に住み続けたいと思っています。そして、私が豊橋を好きなようにみんなからもっと愛されるまちづくりを目指していきたいと思います。

今年はコロナウイルスの影響もあり、行事も全てなくなってしまいました。ですが、そんな今だからこそ、来年度の行事をより地域の方に楽しんでもらえるような案を出したり、コロナウイルスによって打撃を受けている飲食店や農家をPRする企画を作り、コロナウイルスが収束するころには元の状態を保てるように、地域の方々とともにコロナウイルスを乗り越えていきたいと思っています。

ここで、まちづくりをするにあたってウォルト・ディズニーのこんな言葉を紹介します。「現状維持では後退するばかりである。」この言葉のように、ただ守っていくだけでなく、伝統を守りつつ、新しいものを取り入れ、10年後、100年後と続いていくようなまちにしていきたいと思っています。

天野 未悠委員

私がわかば議員でやりたいことは2つあります。1つ目はわかば議員の皆さんとの交流です。前回、初めてわかば議員の皆さんとお会いした時に、どの方も豊橋が好きで、豊橋をより良くしていこうという熱い思いが感じられました。そして、これからの議会が楽しみになりました。わかば議会では高校生から社会人という幅広い年代の方と関われる貴重な機会なので、積極的に考えを深めたいです。そして、様々な考え方を取り入れ、自分の視野を広くし、成長へとつなげたいです。また、私は大学でディスカッション部に所属しています。そこでは、普段からSDGsといった地球環境問題やジェンダー論など、世界の様々な問題について話し合っています。その経験も生かして、より話し合いを一緒に作っていききたいと思います。

2つ目は、私の豊橋で一番好きなおとまりであり、豊橋の魅力の1つともいえる鬼祭りを守ることです。私は鬼祭りに関わりのある地域に住んでいるので、小さいころから年に1度の鬼祭りを心待ちにし、毎年必ず参加していました。そして、年に一度の本番のために年中か

けて準備を行っていること、また鬼祭りの後継者不足で悩む姿も間近で見えてきました。佐原市長のマスクもすごい、トヨッキーのマスクが素敵だなと思って見ていたんですが、そんな風に地域の人々に愛される鬼祭り、そして千年以上続く歴史ある鬼祭りをこれからも守り続け、これからの子どもたちもまた私のように鬼祭りに参加でき、地域の人々の温かみを感じ、豊橋のことが大好きになる、これからの子どもたちへのそんな思いがあります。

そのためには、豊橋市外だけでなく、豊橋市民にも豊橋の良さを再PRすべきだと思います。豊橋は何もないからといって、地元を出て都市部に行ってしまう若者が多くいると聞きます。鬼祭り、路面電車、ブラックサンダー、530 運動発祥の地、手筒花火、豊橋にはこんなにも他の町にはないものがたくさんあるんだよ、と私は声を大にして言いたいです。豊橋の良いところをたくさん発信できる、そんなわかば議会でありたいと思います。

石黒 友実子委員

私はまちづくりや市民参加の活動に興味があり、将来は自分の住むまちに貢献できるような仕事につきたいと思っています。昨年、学校で新城市の若者議会についての講演を聞き、私のような高校生の世代でもまちづくりに参加でき、様々な経験を通して、まちに貢献できることを知り、とても魅力を感じました。参加してみたいと思いましたが、その時は交通面の理由で諦めていたところ、今回学校に掲示されていたポスターから豊橋市で豊橋わかば議会が作られることを知り、是非私も参加してみたいと思いました。そして、昨年学校で東三河について研究し、発表するという授業があり、私はグループで「豊橋市をさらに発展させるには」というテーマで発表を行い、さらにまちづくりとまちへの貢献に興味を持ちました。また、豊橋市はとても住みやすく魅力的なところがとてもたくさんあると感じているからこそ、より良いまちにしていきたいと思います。そのために、様々な角度から物事を考え、積極的に自分のアイデアを出していきたいと思います。

市川 朝日香委員

私がわかば議会に応募した理由は、自分たちの考えたことで誰かの役に立つという経験をしてみたいと思ったからです。私は以前、高校で様々な探究活動を行ってきました。ですが、それらはあくまで授業の一環であり、すべての研究は発表までで終わってしまい、実行することができませんでした。ですから、私は自分の考えが、考えのまま終わってしまったということにとっても心残りがあります。

このわかば議会では、実際に考えた政策に1000万円もの予算がつき、今まで私の経験してきた次の段階である実行するというところに魅力を感じています。課題を見つけて予算の範囲で解決するということが私が予想している以上に難しいことだと思います。1000万円という額は市政にとっては標準的な額かもしれませんが、今の私にとってはとても膨大でどのくらいの規模のことまで実現可能なのか全く想像もつきません。また、市を動かすことは高校生の私の力だけでは不可能です。しかし、わかば議会には、社

会人の方や大学生の方も参加しているので、たくさんの視点から豊橋について考えることができ、より実現可能な政策を完成できると思います。最高の政策を作り上げるためにも、ほかの議員に頼ってばかりではなく、自分からも意見をたくさん出して、貢献していきたいです。私は現段階では、市政のことも豊橋のことも、まだまだ知らないことばかりですが、この貴重な経験を通じて、豊橋のこと、市政の仕組みもより知っていけたらなと思います。

大木 悠也委員

僕は野菜が好きです。野菜は食べておいしいのはもちろん、育てることも楽しいです。各家庭で色々な調理法もあり、野菜の楽しみ方はたくさんあります。子どもの頃、おじいちゃんが野菜やお米を育てているのを手伝っていました。僕が通う豊橋中央高校でも、野菜を育てています。自分の手で育てることによって、野菜に対する思いがより強くなりました。

僕は豊橋の美味しい野菜を多くの人に広めたいです。そのためには、地元の野菜や農家さんについて、詳しく書いた広告を作ったりし、地元の新鮮な野菜を使ったお店がもっと増えたらいいと思います。それは、地産地消ということにもなり、まちの活性化につながるのではないかと考えています。より多くの人に楽しんでもらえるように店内を明るくしたり、あるいは個性的にしたり、花のまち豊橋というように店内にたくさんの地元の花を置くのもいいと思います。

僕は音楽も好きです。オープンデッキを設け、広場などで豊橋の新鮮な野菜と音楽を融合したイベントやフェスなどを開いて、豊橋市を僕たち自身が誇り愛せるようなまちにしていきたいと思っています。

太田 まこ委員

私はもっと多くの人に豊橋の魅力を伝えたいと思い、この豊橋わかば議会に応募しました。なぜなら、学校で豊橋の魅力を出し合おうという授業をした時、多くの生徒が「豊橋の魅力って何?」、「豊橋は好きだけど、魅力って言われたらあまり思いつかないな」と豊橋の魅力に気づいていない人が多くいることが分かったからです。私も色々な方のお話を聞いたり、自分でインターネットなどにより調べたりすることで初めて知る魅力がたくさんありました。こんなに良いところがあるのに、住んでいる人がその魅力に気づいていないことは、とても悲しいことだと思いました。私はどうしたらもっと多くの人に豊橋の魅力を知ってもらえるかを考えました。

そこで、まずは影響力の強い学生をターゲットに絞り、積極的に魅力を知ってもらうための政策が必要だと考えました。そして、SNS で発信してもらうことで、より多くの人に魅力を知ってもらうことができるのではないかと考えました。考えるだけでは何も変わりませんが、このわかば議会ではこうした政策の実現を目指すことができます。今まで、私は自分から何かを変えようと行動することを、自分で何かを変えられるわけがないと避けてきました。でも、このわかば議会に参加することができ、改めて豊橋について考えた時、自分

も豊橋をより良いまちにするために何かをしたいという思いが強くなりました。

同じ思いを持つ方々と、目標実現のために活動できることをとても嬉しく思います。積極的に活動に参加し、豊橋をより良いまちにするために頑張っていきます。

菊池 二千翔委員

私は、豊橋駅周辺にある、ときわ通りを変えたいという思いで豊橋わかば議会に参加しました。はっきり言ってときわ通りは昼でも夜でも近づきにくい暗い雰囲気があります。暗い雰囲気に加え、治安も悪く、絡まれたこともあり、その時、豊橋を変えたいと思いました。

この出来事をきっかけに、豊橋のことについて考えはじめ、ときわ通りだけでなく、シャッター通りと化した商店街や空き家など、豊橋市の都市部全体にスポンジ化が起きていることに気づきました。それに伴い、体感しやすい治安の悪化が起きています。なので、ときわ通りの活性化を目指すことによって波紋のように広がり、豊橋市全体の活性化につながると考えています。

より良いまちづくりができるよう、私個人の感じた問題だけを押し通すのではなく、柔軟に皆様と意見交換ができればと思います。

熊谷 彰太委員

僕が活動していく中でのモットーは、「誰かのために 120%全力を尽くす」ということです。もちろん、これは勉強にも自主活動にも、もちろん恋にも 120%尽くす、そんなつもりで動いています。ここで、僕は思いました。高校 3 年生になったからには、大人の階段も登ってくるころ、だからできれば市と協力して、何か一つのことができないか、そう思いました。これからを生きる高校生の力を使い、積極的に意見を出すことで、豊橋をより良く活性化していきたいと、そう思いました。

熊谷 ゆらら委員

私が参加するきっかけとなったのは、新城の若者議会を知ったことです。若者議会での提案が実際に行われている様子を知り、憧れの気持ちと自分もやってみたいという気持ちが生まれました。そして、豊橋でも同じような活動があったら絶対に参加したいと思っていました。学校で行っている探究活動での経験を踏まえて、いろいろな提案をしていきたいと思っています。少しでも豊橋がよりよいまちになるよう一生懸命取り組んでいきます。今回いただいたチャンスを最大限に生かしてがんばっていききたいと思っています。よろしくお願いします。

香田 和佳奈委員

私は実際に考えた政策を事業として実現できるこの企画に魅力を感じ、委員となることを決意しました。

さて、私は子どもの頃から本が大好きです。豊橋市では現在、まちなか図書館の開館の企

画がされていることを知り、完成を心待ちにしています。そこで、さらに図書館サービスを市民にとって身近なものとするために図書館という枠を超えて、もっと多くの人に本を読んでもらうために、私は移動図書館が有用であると考えます。私が豊橋市に移る以前に住んでいた地域では、4トントラックと3.5トントラックを改造し、3千冊の本を積載して、保育園、幼稚園、小中高、養護学校をはじめ、病院、老健施設、JA、企業を22のコースに分け、巡回していました。図書館の方から近くに来てもらえるとしたら、ちょっと出かけてみようかな、と思う方もいらっしゃるかもしれません。移動図書館を通して、子育て中の親同士が会うきっかけになったり、お年寄りがコミュニティを広げるきっかけになるとも考えられます。これは、豊橋市をより良くしていきたいと願う、一委員の意見に過ぎません。しかし、豊橋市をより魅力的な市にしたいという思いは、皆同じであると思います。アイデアを出し合い、調査や情報収集をしながら、ここに集まった20人の議員の皆さんとともに、より良いものを作り上げたいと思います。

榊原 光委員

小中学校の頃は校区内、高校生の頃は市内、そして大学生になって、名古屋の学校に進学し、豊橋以外のまちを知ることになりました。大学4年生になって、豊橋に住んでいる長年付き合いのあった友人が就職して、豊橋を離れることになることを知り、豊橋をめぐる旅をすることになりました。私が市内でお出かけた記憶といえば、小さいころに両親に連れていってもらった地下資源化センターや、のんほいパーク、豊橋まつり、ここにこでのロボット作り教室やクッキング教室のことがぼんやりと頭の片隅に残っているくらいです。自発的に市内のどこかに遊びに出かけようと調べたことはなかったため、この時初めて自分が生まれ育った市を、地域を、意識するようになります。その友人との豊橋巡りは市電に乗って、ホットケーキが美味しい純喫茶と豊橋市美術館へ行くものであったり、石巻山に登ったり、懐かしいクレープを食べに行ったり、可愛いカフェにお茶へ行くものでした。これらはとても楽しい時間でした。なんとなく居心地のいいほっとする豊橋のまち、その「なんとなく」の部分をもっと具体的に突き詰め、誰にでもここが魅力なのだと伝えることができるようになりたいです。

また、市内の友人と訪れるには、良いところがたくさんありましたが、豊橋に遊びに来たいといってくれる遠方の知人が相手だと、どこを目玉にして観光をすればよいのかと悩んでしまいます。懐古するにはちょうどよく、しかし豊橋のことをあまり知らない、むしろ新しいものを求めに来る人たちが相手だと若干の物足りなさを感じてしまいます。

私はこのまちの発展のために市内だけでなく、市外からも注目されるようなことがしたいと思っております。

白井 竜之進委員

私は、今自分の中で豊橋の改善するところは具体的には見えてきません。なぜなら、豊橋

をそのような目線で考えたことが今までなかったからです。このわかば議会の趣旨である、「豊橋をより良くする」、このテーマは漠然とし過ぎて、具体性が見えてきませんが、それを考えることからやっていくということが、わかば議会の委員に課せられた課題だと私は考えています。このわかば議会は、若者によるまちづくりをしていく会だと自分は認識しています。若者ならではの柔軟な考え方を活かし、ある一点から物事を見つめるだけではなく、様々な視点から様々な対象差を想定し、どういうジャンルで、どのような成果が出るのかを考えた上で、提案し、政策を進めていく必要があると考えています。

このような政策を考えていく中で、必ずメリット、デメリットが出てくると思います。それを私たち若者がどうとらえるのか、いつまでもきれいごとを言っていては始まらず、議会も煮詰まらなないと私は考えます。そのため、私は周りの委員の考えも尊重させていただいて、この議会が円滑に回っていくよう、若者で考えた意見を声を大にして考えていきたいと思っています。

高木 莉子委員

私が豊橋わかば議会に参加しようと思った理由は、豊橋が好きでより良くしていきたいからです。私は、生まれも育ちも豊橋市です。そして、これからも豊橋市に住み続けていきたいと思っています。

さらに豊橋に関わる全ての人に、「豊橋っていいところだな」、「また来たいな」、「住んでみたいな」と思ってもらいたいです。このように思ってもらうためには、自分自身で豊橋市をより良くしていくべきと考えたので、豊橋わかば議会に参加いたしました。

豊橋にはたくさんの魅力があります。のんほいパークや、豊橋カレーうどん、トヨッキー等々、皆さんが思う魅力があると思います。私はこの豊橋わかば議会で、まだまだ知られていない良さを発見し、伸ばしていきます。さらには改善点を見つけ、それを魅力に変えていけるようにしていきます。市民と一緒に参加したくなるような取り組みを、この豊橋わかば議会で実現していきます。

高安 駿斗委員

僕は現在、豊橋の中心地から石巻まで自転車で通学しています。田舎の方では街灯が少なく、とても危険に感じます。故意に騒音を大きくするバイクや車、交通ルールを守らない人、危険な運転をする人が多く、安心して帰ることができません。高校生の自分でも怖いと感じるので、小さな子ども、身体に障害のある方やお年寄りの方も怖がっているに違いないと思います。実際、僕の祖母は毎晩、騒音のせいで深夜に目が覚めてしまって、なかなか寝付けないうちで寝ていました。

そこで、僕は賑わっている都会に力を入れるのではなく、過疎化が進み、高齢者の多い田舎でも安心して生活ができる環境づくりに力を入れたいと考えています。

上記に挙げられた以外にも、小学校に不法侵入して遊んでいる人や、公共の場にバイクが

集まるなど、なかなか安心して利用できない現状があります。そのため、地域の方と一緒に助け合い、協力して巡回パトロールを行ったり、ポスターなど作成して呼びかけを行ったりしたいと思います。子供の頃と比べるとまちなかだけでなく、田舎の方もだんだんと治安が悪くなってきたように感じます。特に、交通ルールを守らない人が多いです。小さい子どもやお年寄りの方が安心して生活するために、一人一人が意識しなければなりません。そのため、パトロールをして呼びかけたり、市政だよりなどで呼びかけたりしてより良い豊橋を作っていくことが必要だと思っています。

福井 淳之介委員

私が、豊橋わかば議会若者委員に応募した理由は2つあります。1つ目は豊橋の魅力をほかの町の人に知ってもらいたいからです。私は日ごろから、豊橋のことを勘違いされていると感じています。現在、豊橋から名古屋の大学に通っていて、名古屋の大学で地元は豊橋という話をすると、豊橋って何もないよねとか、さびれているという話をされます。しかし、私はその人たちは勘違いをしていると思います。なぜなら、豊橋は温暖で、食べ物もおいしく住みやすいと感じているからです。例えば、豊橋はスイーツの王国です。ピレーネ、ブラックサンダー、今の時期だと天伯スイカとか、秋だと小島の梨とか、すなわち豊橋は魅力的なまちです。しかし、豊橋のことをほかのまち、そして豊橋に住んでいる人すら、あまり知りません。そこで、私は豊橋の魅力を世の中に発信し、他のまちの人の勘違い、豊橋に住んでいる人に魅力を伝え、そして豊橋って食べ物もおいしいし、いいまちだよねと言っていたようなまちにしたいです。

2つ目は普段から感じている豊橋の課題を解決したいからです。普段、豊橋のここを直せばもっと良くなるのにとっても、その課題を解決するのは難しいです。なぜなら、そもそも課題を発信する場がありませんし、お金が必要であったり、ハードルが高いことが多いです。しかし、今回のわかば議会では、普段から感じている課題を解決することも可能であると考えます。

すなわち、この豊橋わかば議会を通じて、知っているまち豊橋から、住みたいまち豊橋、住み続けたいまち豊橋にしたいと考えております。

本多 基準委員

自分の住んでいるまち豊橋市について、もっと知りたいと興味があり、わかば議員に立候補させていただきました。

実は先日、土用の丑の日に初めて、豊橋産のうなぎを食べたのですが、今まで食べたうなぎの中で一番おいしく、とても衝撃を受けました。豊橋に20年住んでいても、このように豊橋について知らないことがまだまだたくさんあると思います。豊橋市民としてもっと豊橋について詳しく知れたらなと思います。

松下 真子委員

私は豊川市民で、豊橋市民ではありません。ですが、豊橋のことは大好きで、豊橋にはたくさんの魅力があると思っております。豊橋の大学に通うようになって、豊橋に住んでいる友達と話している時に、「豊橋市には何も魅力がない」と言っている友達がありました。ですが、私は豊橋市にはたくさんの魅力があると感じています。豊橋まつりもその魅力のひとつただと感じています。昨年度の豊橋まつりに私は、高校生と一緒に約80名で、総踊りに参加いたしました。高校生と一緒に豊橋まつりに参加し盛り上げることにつながりました。同じ大学の学生だけでなく、私よりも年下の学生とも話すことがあり、年下の人にももっと豊橋に興味を持ってもらいたいと思いました。活動しているうちに短期大学の仲間だけでなく、いろいろな同世代の方たちともつながりをもちたいと感じました。これも、わかば議会に参加しようと思った理由の一つです。

水鳥 杏香委員

現在、桜ヶ丘高校の生徒会をしており、ボランティアなど様々な活動を通して、校内・校外問わず、高校生の考えを発信しています。活動の中で豊橋市と掛け合っている事業もありますが、まだまだ進んでいないのが現状です。広い視野を持ち、自分の住む豊橋市のことも考え、活動の幅を広げたい、そう思いました。うずらや大葉など、豊橋市ならではの特産物もたくさん広めていきたいです。私たち高校生の考えを深め、豊橋市のためになにか実現できる機会があるということを知り、興味を持ちました。生徒会活動で行事や企画を一から作る経験を活かし、精いっぱい取り組みます。

山本 敦也委員

僕がこの豊橋わかば議会委員に立候補させていただいた理由は、自分たちの出したアイデアが実際に実現していくところに魅力を感じたからです。

他の市でも実際に市民にアンケートをとり、その市の課題や今後の政策などについての話し合いが行われているらしいのですが、その話し合いで出たアイデアが実際に実現していくかといわれると、そうではない場合が多いようです。しかし、この豊橋わかば議会は違います。1年間を通じて、豊橋市の課題などについて話し合い、魅力あるまちに変えていくためには、これからどのようなことをしていけばよいのか、より具体的な案をまとめ上げます。そして、11月下旬には、これまで練り上げてきた政策を市長に提案し、来年度には実際に予算がつき、実現していくことが可能なのです。これは、豊橋市ならではの取り組みだと思えます。